

学校いじめ防止基本方針

2020年3月 改訂
～下関市立角倉小学校～

目 次

はじめに

1 いじめ問題に対する基本的な考え方

- (1) いじめの定義
- (2) いじめの禁止
- (3) 求められる責務
- (4) 基本的な認識
- (5) いじめの分類
- (6) 基本的な姿勢
- (7) 基本的な対応

2 いじめ問題への取組

(1) 校内体制の確立

- ①「いじめ防止対策委員会」の設置
- ②確実な情報共有と指導体制の強化
- ③教職員が児童と向き合うことができる体制
- ④学校評価による評価・検証・改善
- ⑤教育委員会への報告・連絡・相談

(2) 家庭、地域、関係機関等との連携

(3) 未然防止の取組

- ①「心の教育」の充実
- ②いじめを許さない学校・学級づくり
- ③児童の主体的な活動の充実
- ④日常的な実態把握・かかわり
- ⑤保護者や地域住民との信頼関係の構築
- ⑥中学校区での取組

(4) 早期発見の取組

- ①日常的な行動のきめ細やかな観察
- ②連絡帳や日記等からの情報収集
- ③スマイルチェック・スマイルアンケートの実施
- ④相談箱の設置
- ⑤生徒指導委員会と児童情報交換会
- ⑥情報の引き継ぎ（年度末）

(5) 解決に向けた取組

- ①初期対応
- ②中期・長期対応

(6) インターネットや携帯電話を利用したいじめ（ネットいじめ）への対応

- ①未然防止
- ②初期対応
- ③被害拡大の防止
- ④関係機関との連携

(7) いじめの解消について

3 重大事態への対応

※重大事態への対応フロー図

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な育成及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがある。

本校においては「五つの気『元気・本気・根気・やる気・和気』があふれる角倉っ子の育成」、下関市においては「15歳の心の教育と学力保障」を掲げ、特に児童が着実に学力を向上させるとともに、心豊かな人間性と社会性を育む心の教育を推進している。中でも、命を大切にし、他人を思いやり、自ら考え判断し行動していこうとする力の育成は、いじめ防止等において最も重要である。

以上のことを踏まえ、本校としてのいじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するために、ここに対策の基本となる事項を定めるものである。

1 いじめの防止等に関する基本的な考え方

(1) いじめの定義

いじめとは、当該児童等が、一定の人間関係のある者から、心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）によって、心身の苦痛を感じているものをいう。

（「いじめ防止対策推進法」第2条第1項要約）

いじめの認知にあたっては、特定の教職員のみによることなく、学校いじめ対策組織が中心となっていじめに該当するか否かを判断することとし、けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。

また、「心理的または物理的な影響を与える行為」とは、

- ・冷やかしやからかい、悪口や脅し文句を言われる
- ・仲間はずれ、集団による無視をされる
- ・ぶつかられたり、暴力をふるわれたりする（遊ぶ振りを含める）
- ・金品をたかられる
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられる
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・パソコンや携帯電話等で、誹謗・中傷や嫌なことをされる 等

(2) いじめの禁止

児童等は、いじめを行ってはならない。（法第4条）

(3) 求められる責務 ～学校及び教職員の責務（法第8条より）

保護者、地域住民、関係機関等との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合には、適切かつ迅速に対処する責務がある。

(4) 基本的な認識

◆いじめは、「人間として絶対に許されない、人権にかかわる重大な問題」である。

- ・「いじめは許されない」、「いじめる側が悪い」という毅然とした姿勢を示す。
- ・いじめは子供の成長にとって必要な場合もあるという考えは、絶対に認められない。
- ◆いじめは、「学校、家庭、地域の教育力が問われる問題」である。
 - ・大人の何気ない言動や不適切な対応が、子供を傷つけたり、他の子供によるいじめを助長してしまったりする事もあり得る。
 - ・大人が日頃から毅然とした態度、個性や差異を尊重する姿勢を示すことが大切である。
- ◆いじめは、「どの学校でも、どの子にも起こり得る問題」である。
 - ・いじめは、同じ学級で仲のよい友達同士の間でも起こり得る。また、誰もが「いじめる側」にも、「いじめられる側」にもなり得る。
- ◆いじめは、「発見が難しい問題」である。
 - ・いじめは、人が見ていないところで起こりやすい。一見すると遊んでいるようにも見えることもある。(いじめとふざけ合いが区別しにくい)
 - ・被害者は、誰にも打ち明けることができず、その悩みや苦しさを一人で抱え込んでいる場合が多い。
- ◆いじめは、「学校、家庭、地域、関係機関が連携して取り組むべき問題」である。
 - ・子供の様子をいち早くキャッチした者が、その子どもを取り巻く全ての関係者と連携して、それぞれの立場から解決に向けた責務を果たす必要がある。

(5) いじめの分類

いじめの認知力を向上させ、早期発見につなげるため、いじめを次の3つのレベルに分類する。

【レベル1】 日常衝突としてのいじめ

日常の衝突の中で、定義に照らし、いじめと認知すべきもの。

【レベル2】 教育課題としてのいじめ

日常の衝突を超えた段階までエスカレートしたもので、学校として個別の生徒指導体制を構築し、組織的な対応をとる必要のあるもの。

【レベル3】 重大事態及び重大事態につながりかねないいじめ

法に定める「重大事態」に該当する、または「重大事態」にいたる可能性のあるもの。

(6) 基本的な姿勢

- ・教育活動全体を通じて、児童一人一人が、心豊かに、安心して生活できる学校・学級づくりを行う。
- ・児童にしっかりと寄り添い、一人一人の状況を把握するとともに、児童が安心して悩みや不安を相談できる信頼関係を構築する。
- ・保護者や地域住民等といじめの防止等に係る情報を共有し、未然防止や早期解決に向け、連携して対応できる態勢を整える。

(7) 基本的な対応 『未然防止・早期発見・早期対応』

未然防止

- ・子供の発達段階に応じて、様々な人とかかわり合う生活体験や学習活動等を通じて、心の通い合う人間関係を構築する能力を醸成する。併せて、豊かな情操や道徳心、社会性を育み、障害への理解や人権感覚を高める。

- ・学校は、児童や保護者との信頼関係を基盤として、いじめを絶対に許さない風土をつくる。

早期発見

- ・学校、家庭、地域が一体となって、子供たち一人一人に寄り添い、かかわる中で、子供が発するサインを見逃さない。
- ・学校だけでなく、教育委員会や関係機関等の相談機能を高め、子供たちが不安や悩みを気軽に相談できる体制を整備する。
- ・単なる友人間のトラブルと見える場合も、いじめの視点で捉え直す。

早期対応

- ・いじめを認知した（疑わしい場合も含む）場合は、速やかに管理職への報告と情報共有を行い、組織的に対応する。併せて、保護者の理解、協力を得ながら早期解決を目指す。
 - ・いじめられている児童に対しては、「絶対に守る」という学校の姿勢を示し、心のケアと安全確保を図る。また、いじめたとされる児童に対しては、事情を確認した上で適切な指導を行う。
- ※ 学校は、いじめの未然防止・解決に向けて、平素から家庭、地域、関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携を密にし、早期の相談やケース会議等を行う。

2 いじめ問題への取組

(1) 校内体制の確立

① 「いじめ防止対策委員会」の設置（法第22条より）

- ・学校におけるいじめの未然防止、早期発見、早期対応など、組織的な対応を行うための中核組織として、校内に「いじめ防止対策委員会」を常設する。
- ・本委員会は、いじめ事案発生時においては、校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、教育相談担当、養護教諭、関係する児童の学年主任、学級担任をもって構成する。
- ・いじめを未然に防止するために、年2回（6月、10月）、生徒指導推進委員会において、いじめ防止対策委員会を実施する。
- ・SCやSSW等の外部専門家や、県・文科省が作成したいじめ研修資料を活用した研修会を、年1回、全教職員参加で実施する。

② 確実な情報共有と指導体制の強化

- ・いじめの定義の解釈やその対応に温度差が生じないように、全教職員が組織的・計画的にいじめ問題に取り組むことが重要である。
- ・全教職員が、いじめは「どの学校でも、どの子にも起こり得る」ことを共通認識するとともに、いじめの基本的な対応について理解しておく。
（山口県教育委員会作成「問題行動等対応マニュアル」参照）
- ・特別支援学級に在籍する児童、もしくは通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の中には、自分の思いや苦しさを表現することが困難な児童も在籍している。個々の児童の特性を踏まえた具体的な取組について全教職員で共通理解し、支援体制を構築していく。
- ・学級担任等の特定の教員が抱え込むことなく、速やかに情報を共有する「生徒指導記録票」への記入等を通して、管理職等への報告・連絡・相談を確実に行うことを徹底する。また、状況に応じて、速やかに「いじめ防止対策委員会」

を核として組織的に対応する体制を整備しておく。

- ・「いじめ防止対策委員会」が、単なるいじめ事案の対応協議の場だけでなく、いじめの未然防止、早期発見・対応に有効に機能させる。

③ 教職員が児童と向き合うことができる体制の整備

- ・学校における業務改善を一層推進し、教職員が児童と向き合う時間を確保する。

④ 学校評価による評価・検証・改善

- ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況を学校評価の評価項目に位置付け積極的に評価することで、教職員の資質向上を図っていく。

⑤ 教育委員会への報告・連絡・相談

- ・定期報告… 毎月、「新たに認知」及び「継続支援中」のすべての事案について報告する。
- ・臨時報告… 「重大事態に類する事案」を認知した場合は、直ちに報告する。

(2) 家庭、地域、関係機関等との連携

- ・「学校いじめ防止基本方針」の内容（いじめの定義、「いじめ防止対策委員会」の存在やその活動、発生時の学校の対応、相談窓口等）について、PTA 総会や学校運営協議会、学校ホームページや学校だより等を活用して、保護者や地域住民へ確実に周知する。
- ・家庭、地域、関係機関等と、いじめの現状や課題について情報を共有し、協力していじめの現状や課題について情報を共有し、協力していじめの防止等に取り組む体制をつくる。
- ・教育委員会と情報共有のもと、SC や SSW、GA、CA、関係機関等と連携して対応できる体制を整備する。

(3) 未然防止の取組 ※「下関スタンダード生徒指導版」参照

① 「心の教育」の充実

- ・道徳や学級活動、「下関市いのちの日」の取組等を通じて、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心など、豊かな心を育む。
- ・授業や学校行事における人とのかかわり合う活動を通して、自己肯定感を高めるとともに、人とよりよくかかわっていこうとする意欲や態度を育てる。

② いじめを許さない学校・学級づくり

- ・児童に、どんな行為がいじめにあたるか理解させ、学校、学級内に、いじめの行為のみならず、周りではやし立てたり、傍観したりする行為も同様に許さない環境・風土をつくる。
- ・加害行為の抑止につながるよう、「いじめは許さない」、「いじめる側が悪い」という毅然とした対応をする。
- ・常に環境整備を心がけ、校舎内の落書きや掲示物の乱れがないよう気を配る。

③ 児童の主体的な活動の充実

- ・児童会活動や集会活動、学校行事など、児童が主体的に活動する場を工夫し、いじめの防止等について主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。

④ 日常的な実態把握・かかわり

- ・児童に寄り添い、授業や休み時間、給食、清掃活動などを含め、常に子供とかかわり、信頼関係を築く。

⑤ 保護者や地域住民との信頼関係の構築

- ・学校だよりや「きらめきネットコム」、学校運営協議会等で、学校生活の様子を家庭や地域に伝えるとともに、家庭や地域での様子も把握し、保護者や地域住民との信頼関係を築く。

⑥ 中学校区での取組

- ・中学校区の小・中学校で9年間を見通し、生活・学習規律の一貫した指導を行うことにより規範意識を育む。
- ・中学校区の小・中学校でいじめの定義の共有化、未然防止策、発生時の対応等について、教職員で共通理解する。
- ・小中連携、小小連携を組織的に取り組み、学年・学級づくりを中心とする「心の居場所づくり」「絆づくり」を小中学校全職員が協働して取り組む体制を作る。

(4) 早期発見の取組（把握しにくいいじめへの対応）

※問題行動対応マニュアル「いじめ：②いじめの早期発見に向けた取組」参照

① 日常的な行動のきめ細かな観察

- ・「いじり」や「からかい」は、受けた側が苦痛を感じれば「いじめ」であるという認識をもち、行き過ぎた「いじり」には、その都度教職員が適切な対応及び指導を行う。

② 連絡帳や日記等からの情報収集

③ スマイルチェック・スマイルアンケートの実施

- ・毎週末にスマイルチェックを行い、その結果を生徒指導記録票に記入する。「嫌な思いをしている」「嫌な思いをしている人がある」に丸を付けている児童には担任が面談をし、いじめが疑われる場合には直ちに管理職、生徒指導主任及び教育相談担当に報告し、対応をする。
- ・学期に1回、児童と保護者を対象にスマイルアンケートを行い、実施した日に内容を確認し、いじめが疑われる場合は直ちに管理職、生徒指導主任及び教育相談担当に報告し、対応をする。

④ 相談箱の設置

- ・北校舎1F廊下の会議室前に相談ポストを設置し、直接相談しにくい児童の悩みに対応する。

⑤ 生徒指導推進委員会と児童情報交換会

- ・日頃から、教職員同士で気になる児童の話をする。
- ・生徒指導推進委員会（月1回）や児童情報委員会（学期1回）を通して、児童や学級の状況、それに対する対応を共通理解する。

⑥ 情報の引き継ぎ（年度末）

- ・新学年の学級編成をする際には、学級編成資料に気になる児童の様子や配慮事項を記入する。

(5) 解決に向けた取組

① 初期対応

※問題行動等対応マニュアル「いじめ対応：初期対応、初期・中期対応」参照

ア) いじめ発覚直後

- ・管理職や生徒指導主任、教育相談担当、学年主任等へ報告し、情報を共有する。（分かっている範囲で、事実のみを速やかに報告する）

イ) 対応チームの結成

- ・管理職が情報を確認し、今後の対応の協議、役割分担等を行う。

ウ) 関係児童への聞き取り

- ・関係する個々の児童の思いをしっかりと受け止めながら、いじめの詳細について聞き取りを行う。

被害児童

- ・信頼関係がある教職員が、個別に別室で聞き取りを行う。
- ・「報復を恐れて真実を語れない」ということがないように、「いじめは絶対許されない」、「教職員が全力で安全を守る」ことをしっかりと伝える。

加害児童

- ・いじめの具体的な行為（冷やかし、仲間はずしなど）を確認する。
- ・いじめの認識がない場合もあるので、いじめられている側のつらさを伝えながら、丁寧に聞き取りを行う。
- ・聞き取りが長時間に及ばないように、また、水分補給や用便など健康面にも十分配慮する。

周囲の児童

- ・情報提供者が分からないよう万全の配慮をすることを伝え、具体的な事実（いつ、誰が、どこで、どのようなことがあったのか）を聞き取る。

エ) いじめ防止対策委員会の招集

- ・校長は「いじめ防止対策委員会」を招集し、聞き取った内容（不明確なことがあれば再度聞き取り）をもとに、以下のことを協議する。
 - a 被害児童とその保護者への対応
 - b 加害児童とその保護者への対応
 - c 他の児童及び保護者への対応
 - d 関係機関等への支援要請（必要に応じて）
 - e 別室指導や出席停止等の措置の検討（必要に応じて）

オ) 対応上の留意点

a 被害児童とその保護者への対応

被害児童 〈共感的理解に基づく指導・支援〉

- ・本人の不安（疎外感・孤独感等）の払拭を図り、教職員が全力で支えることを約束する。
- ・今後の対応について、本人と相談して決定する。
- ・「いじめに負けるな」などの叱咤激励は厳に慎む。
- ・本人、保護者の了解のもと、スクールカウンセラー等による心のケアを行う。

被害児童の保護者 〈家庭訪問による対応〉

- ・管理職等、複数の教員で家庭訪問を行う。
- ・学校管理下で起こったことへの謝罪を行うとともに、いじめの概要を説明する。
- ・学校の対応方針等を説明するとともに、保護者の思いや考えをしっかりと聞きとり、連携して対応する。

b 加害児童とその保護者への対応

加害児童 〈再発防止に向けた指導、謝罪に向けての話し合い〉

- ・叱責や説諭等のみにとどまらず、振り返りを十分に行い、自己の問題点に

気付かせ、しっかり反省させる。

- ・今後の被害児童との関係をどうするのか、改善すべき言動等について話し合い、加害児童の成長支援につながる指導を行う。
- ・成育歴や人間関係等、背景の理解に努め、加害児童の気持ちも理解しながら指導する。
- ・被害児童に対して、謝罪の気持ちをもてるよう、粘り強く指導する。

加害児童の保護者〈家庭訪問または来校による対応〉

- ・管理職を含めた複数の教員で対応する。
- ・加害児童が複数いる場合は、不公平感を抱かれないよう配慮する。
- ・保護者の心情を共感的に理解しながら、今後の当該児童の指導や支援について、共に考える。(加害児童への非難は避ける)
- ・学校の指導や支援について説明する。
- ・被害児童への謝罪等を相談する。

c 他^の児童及び保護者への対応

他^の児童

- ・「いじめは絶対に許さない」という姿勢を示し、学校・学年・学級全体の問題としてとらえさせ、学校生活を送る上で安心感を与えるように図る。
- ・「観衆や傍観者もいじめに加わっていることと同じである。」と認識させる。
- ・被害児童に対する配慮について指導する。
- ・加害児童への二次的ないじめ被害が起こらないように留意する。

他^の保護者

- ・重大事態の場合、加害・被害児童及び関係保護者の理解のもと、臨時の保護者会等を開催して、状況を説明する。
- ・加害児童やその保護者を責めるのではなく、学校・学年・学級全体の問題として報告する。

d 関係機関等への支援要請（必要に応じて）

- ・学校だけで抱え込むのではなく、教育委員会へ速やかに報告するとともに、状況に応じて児童相談所や警察、山口県ふれあい教育センター等の関係機関に支援を要請する。
- ・児童の生命や身体の安全が脅かされているようないじめ事案は、直ちに警察と連携し、いじめられている児童の安全確保のための必要な措置を行う。

e 別室指導や出席停止等の措置の検討（必要に応じて）

- ・別室指導を行う際は、その期間や指導内容について検討しておく。
- ・出席停止等の措置が必要と考えられる場合は、速やかに教育委員会に相談する。

② 中期・長期対応

※問題等行動対応マニュアル「いじめ対応：中期・長期対応」参照

ア) 当該児童の見守りと継続的な指導

- ・表面上は解決したように見えても、より見えにくい形でいじめが潜行する可能性があることから、当該児童のきめ細かな見守りや教育相談を継続して行う。
- ・当該児童の保護者に、事後の学校生活の様子等について連絡するとともに、

家庭での様子も聞き取り、指導に生かすようにする。

イ) 対応上の課題分析と指導体制の強化

- ・発生したいじめ事案を分析し、課題を明らかにして、再発防止に向けて指導体制を強化する。

ウ) いじめ防止基本方針の見直し・改善

- ・いじめ問題への取組について、適正に評価し、いじめ防止基本方針の見直しを行う。(法第34条より)

エ) 進級・進学に伴う引き継ぎ

- ・進級や進学の際は、いじめ事案に関しても適切な引き継ぎを行う。

オ) 学校運営協議会への報告と支援要請

- ・学校運営協議会で、学校の対応を説明するとともに、学校や家庭、地域での取組について意見を求め、支援を要請する。

カ) 関係機関等と連携した対応

- ・必要に応じて、再発防止に向けて、関係機関等と連携した継続的な対応を行う。

(6) インターネットや携帯電話を利用したいじめ（ネットいじめ）への対応

① 未然防止

ア) 情報モラル教育の充実

- ・ネット上の不適切な書き込みは、瞬時に広範囲に広がっていく。児童に対して、ネット上への不適切な書き込みを行わせないため、情報モラル教育を計画的・系統的に実施する。

イ) 児童の主体的な活動

- ・児童の主体的な活動の機会を確保し、未然防止に向けた取組を推進する。

ウ) 家庭・地域への啓発活動

- ・保護者会や学校運営協議会等を通じて、下関市「児童生徒の携帯電話等の利用に関する指針」を周知するとともに、ネットいじめの危険性やネット上の不適切な書き込み等に関する啓発と対策の取組を推進する。

② 初期対応

- ・インターネット上のコミュニティサイト（掲示板や無料通話アプリ等）への書き込み内容、メール文などを確認するとともに、実際に印刷や写真撮影をするなどして記録しておく。教育委員会にも速やかに報告する。

③ 被害拡大の防止

- ・掲示板管理者への削除依頼を行う。
- ・関係保護者の了解のもと、児童の携帯電話やパソコンを閲覧し、不適切な書き込みの削除を確実にを行う。

④ 関係機関との連携

- ・必要に応じてやまぐち総合教育支援センターネットアドバイザーに相談する。
- ・なりすまし等の悪質な事案については、警察と連携し、早期解決を図る。

(7) いじめの解消について

いじめは単に謝罪をもって安易に解消とすることはできない。いじめが解消している状態とは少なくとも次に2つの要件が満たされている必要がある。

- ・いじめに係る行為が相当の期間継続して止んでいること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。

- ・ 被害者児童が心身の苦痛を感じていないこと。心身の苦痛を感じていないかどうかについては、被害者児童及びその保護者に対し、面談等により確認することで判断する。

3 重大事態への対応

別紙「重大事態への対応フロー図」に従い、市教委へ直ちに報告する。その後は、市教委の指示を仰ぎながら対応していく。

【重大事態とは】

- ① いじめにより児童生徒等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき (法第28条第1項第1号)

※「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」とは

- ア 児童生徒が自殺を企図した場合
- イ 身体に重大な障害を負った場合
- ウ 金品等に重大な被害を被った場合
- エ 精神性の疾患を発症した場合 等

- ② いじめにより児童生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき (法第28条第1項第2号)

※「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑い」とは
年間30日（不登校の定義）を目安とするが、一定期間連続して欠席しているような場合等は、学校または市教委が該当の可否を判断する。

- ・ 重大事案への対処に当たっては、いじめを受けた児童や保護者の申立てがあったときは、適切かつ真摯に対応する。

(法案に対する附帯決議の5)

重大事態への対応フロー図

